



城東図書館 2023年5月19日～6月14日実施

まちのひと 尾崎 博子さんの紹介本リスト

TRPGスペース リーディングムーン店長

ロビンソン・クルーソー	ダニエル・デフォー/著	新潮社など
幼稚園の時に誕生日プレゼントとして「少年少女世界の文学」をもらいました。そこに載っていたお話です。読書の原体験に近いです。 主人公は船に乗っていて遭難し無人島に流れ着きます。幸いにも食料や道具なども同時に流れ着いたのでそれを使い一人でサバイバル生活をするに。今あるものをつかって色んな道具を作り出すところとかがとても興味深くてワクワクして読みました。 1番印象に残っているのは「ウミガメ」でしょうか。肉と卵を食べるのですがとてもおいしそうでした。		
レーン最後の事件	エラリー・クイーン/著	KADOKAWAなど
『ドルリー・レーン』シリーズは『Yの悲劇』が1番有名だと思うんですが、私は四部作最後のこちらが好きです。だって最後の事件ですよ。ミステリですんでネタバレは厳禁だと思うので詳しくは書けませんが、この話にでているレーンさんの描写に心打たれます。		
地球幼年期の終わり	アーサー・C・クラーク/著	東京創元社
本屋に『創元推理文庫のSFと怪奇冒険 解説目録』という冊子がありそこにSFベスト10が特集されていてその上位にあったから読んでみた本。ああ、うん。確かにこれはいい。感動した私は友達にこの本貸したら返ってこなかったので30年後ぐらいに買い直しました。「だから私たちも持って行こう。手放しはしない」というシーンが私的には1番の山場。四十年ぶりぐらいに読み直したけど泣けます。		
夏への扉	ロバート・A・ハインライン/著	早川書房
ものすごくベタですね。でもいいんです。 ネコが出てきます。ネコ。護民官ペトロニウスですよ。私はこの作品でペトロニウスの名前覚えしました。映画化もされましたね。山下達郎の作曲の曲もありますね。ルンバがでてきたときに「ハイヤード・ガールじゃないんだ？」になりますね。時代を感じさせる記述もありますが、やはりいいです。 何回読み返したかなあ。主人公の頑張る方向も好きです。古典的名作なので「このパターン死ぬほど読んだわ」になる可能性はありますが、とにかくいいです。王道。		
空想自然科学入門	アイザック・アシモフ/著	早川書房
コレ読んで人生の方向性が決まったかもな本。古本屋で40円で買った「銀河帝国の興亡」読んでたんで、作者買いをする私は手に取った訳ですよ。内容は科学に関するエッセイ集。 まずね、アシモフの語り口にやられましたね。次から次へとでてくるウンチク。たぶんどや顔で語ってる。それがいい。生物の大きさとかいろんなものの1番はなあに、とか。とっつきやすい。数式でてこないし。読んだのが中学の時だったかな、すごく真剣に読みましたね。そして理系を選択し、専攻は生化学選びました。アシモフが専攻してたから、というのも理由の1つです。……結局は全然関係ない店やってますけど！		
宇宙船ビーグル号の冒険	A・E・ヴァン・ヴォークト/著	東京創元社
総合科学ですよ。科学者が知恵でもって困難を克服していくんです。 科学の細分化が進んだ未来、自分の分野以外のことはイマイチわからない状態になっているところに「分野間の橋渡しができる学問」それが総合科学です。専門分野の知識だけではどうにもならなかったことを総合科学者の主人公が頑張ります。 そしてやっぱりクアールですね。ダーティペアシリーズにでてきたときには「ええのん？」ってなりましたよね。アメリカではD&Dのクリーチャー「ディスプレイサービースト」の元ネタにもなったブリティナ生き物。3月末に公開されたD&D映画でもでてきました。SFにてできる最も有名なモンスターらしいです。ともあれこれも科学者が頑張る話。		

いつか猫になる日まで	新井 素子/著	集英社など
青春。うん。青春だね。とか書いているけど、個人的な思い出とリンクして読み返すのが恥ずかしいようなそういう作品。 新井素子さんはその頃すぐく作品がでてどれも面白くて。あたし、夢中になって読んでたの。その中でもこれは特別に、甘酸っぱい記憶を呼び起こして。新井素子さんとはそんなに年も違わないので憧れのお姉さんだったんだ。その憧れのお姉さんが書いた身近な、でも心に刺さるお話。		
ソード・ワールドRPGリプレイ集 バブリーズ編	清松 みゆき/著	富士見書房
ソードワールドというTRPGのプレイ風景を読みやすく書いたりプレイシリーズ。 ソードワールドは国産なら1番売れているTRPGですな。公式リプレイなので、優等生的プレイかと思いきやルールのすきまを攻める感じのプレイイング。実際このリプレイのせいでルールが改定になったっぽいですね。 バブリーズというのはお金の力で押し切っていくバブリーなスタイルから。1番人気なのはエルフだけどダークエルフが白粉ぬってエルフになっていると噂のあるスイフリー。グラスランナーのパラサと遠い親戚コンビ組んでました。 中村博文さんの絵も大変にすてきです。個人的には多分1番読み込んだよね〜なりプレイ。ちなみにマーマンの名前は清松先生が飼っていた金魚の名前から。金魚に競走馬の名前つけてはったんですな。最近ウマ娘が流行ったので「アレの元ネタはもしかして？」という認知が広まってきた感じ。		
ホルモー六景	万城目 学/著	KADOKAWA
鴨川ホルモーのスピノフ短編集。 一つ一つの破片がパチッとほめた感があって推せます。あの時代の京都、を知っている人向けだとは思いますが。それとさだまさし。 この本読んでTRPGのシナリオ作っちゃいましたね。鴨川ホルモーもそうなんですけど、なにかしっくりくるんです。この万城目さんの本は。		
本好きの下剋上	香月 美夜/著	TOブックス
最近のシリーズからひとつ。 なろう小説ですね。最初の方の手作り感がロビンソンクルーソーみがあるな〜と。でもって適度にスカッと要素いれつつ、権謀術数な展開もあり、不機嫌そうないけメンも出てくるので最後まで読んじやいましたね。出版されている分は全部買いましたし。続きが楽しみです。主人公の本が好きなところに親近感あるせいかなあ。でもここまでは頑張れないよね、頑張れるから主人公やってるんだなあ、などと。		

大阪市立城東図書館

大阪市城東区中央3-5-45 06-6933-0350

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp/>